

胎内に古仏の面を蔵する 伝説の啼薬師

薬師三尊および十二神将像

木造、中尊67.3センチ、室町時代(胎内仏面は鎌倉時代)。本尊の右胸にふたつの蝶番、左胸に小さな金具の取っ手が見える。古仏面のご開帳は61年に一度とも。前回の開帳は平成9年。



鎌倉仏像散歩③ 扇ガ谷



鎌倉有数の「花の寺」としても知られる境内。右の銅葺き屋根が本堂(龍護殿)、左に仏殿(薬師堂)の瓦屋根が見える。

海蔵寺(臨済宗)

鎌倉市扇ガ谷4-18-8 ☎0467-22-3175 ●JR鎌倉駅西口より徒歩20分◎拝観情報=史跡「十六ノ井」は拝観料100円、入山拝観は志納。9時半~16時。

扇ガ谷最奥の名刹

海蔵寺

かいぞうじ

仏殿に祀られている薬師如来坐像は「啼薬師」「児護薬師」と呼ばれ、こんな話が伝わっている。

その昔、寺の裏から夜な夜な赤ん坊の泣き声が聞こえ、この寺を開いた源翁禅師が声のするあたりを掘ってみた。すると地中から薬師像の顔が出現。禅師はあらたに薬師像を造立し、お顔を胎内に納めたという。

胎内に小仏像を納めた像を鞘仏というが、鎌倉期の作という納入仏面の面長は、18センチといわれ、鞘仏の面部よりも大きいという。また、右胸に蝶番、左胸に取っ手があり、扉を開けて拝するしくみとなっている。その構造といい、伝説といい、きわめてまれなみほとけなのである。

写真||本田不二雄